
ジnkス

桜河

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ジnkス

【コード】

N0130W

【作者名】

桜河

【あらすじ】

どこにでもある、噂話。

(前書き)

BGMに多大なる影響を受けて第2弾。

ここまで来ると、二次創作のほうがいいのかな・・・？

「ねえ、知ってる？街の端にある教会。その鐘が良く見える丘にのぼってね……」

毎年、冬のこの時期になると聞こえてくる、ジングルス。ありふれて、使い古された話だ。

指定された場所に行き、おまじないを唱える。

そうする事で、恋人と結ばれるとか、一生幸せでいられるとか、二人は永遠に別れることはないとか……。

効果なんて、眉唾ものだ。

ただ、退屈しのぎぐらいにはなるかもしれない。

いつもは、それだけの話し。

けれど、今年は違った。

どちらが先に言い出したのか、忘れたけれど。

朝早くに待ち合わせをして。

確か、今日は雪が降るとか天気予報で言っていたような気もする。灰色の雲と、二人分の白い息。

「別に、信じてる訳でもないけどさ、試してみるだけだって。ホントに効果があったら、悪い事はないわけだし……」

言い訳するところが、本気な証拠だって気付かないのかな？

そういうところも、可愛いとか思ってみたりするけどね。

半分の距離まで来たかなって時に、日が陰りだして。

そういえば、今日初雪降るんだっけ……？

なんか、寒くなってきた気がする。

そう思っていたら、急に肩を抱き寄せられて。

そのまま、雰囲気にならせて抱き合ったりしてみた。

ね。 目的の教会が、だいぶ前に閉まってて人がいないのが救いだっ

きつと、この道を通った人は何人もいるだろう。

いろんな、想いを抱えながら。

そんな事を考えると、たとえ、眉唾もののジंकスでも、本物に思えてきた。

だって、私も「想い」を抱えながら、君と手をつなぎ、この道を通っている。

ああ、教会が見えてきた。

「やっぱり、教会を目にするとテンション上がってくるよね？」
そうかな？

「うん、実際目になると違うね」

同意なんて、してないのにね。

勝手に聞いたとして、答えてもいないのに自己解決。

それって、自問自答って言うんだよ。

知ってた？

そんなやり取りをしながら、歩いていく。

さくさく進んでいく君の後をついていく。

その途中、ついに雪が降り始めた。

はらはらと、儚く。

だけど、存在を主張するように宙を優雅に舞いながら。

君は、舞い上がりすぎて教会しか見ていない。

全く、そのうち躓いて転んでも知らないよ？

すごく、楽しそうで、可愛いんだけど・・・。

少しくらい、私のことも気にしてもいいと思うんだよね。

だって、ここちよっとした坂だし、舗装されてない道だし、雪降

ってるから滑るし。

ねえ、少し歩調を緩めてほしいんだけど・・・
夢中な君は、私の不満顔にすら気付かない。

さつきまで、ふわふわと舞っていた雪が、しんしんと降り注ぎ始めた頃。

丘の頂上へと辿り着いた。

私たちの向かい側には、教会が。

その向こうには、白とも銀色ともいえる雪に包まれた、街が広がっている。

そして、そこで、私たちはおまじないを唱える。

お互いに見つめあい、息がかかる近さで。

おまじないのほとんどは、重ねた唇のせいで音にはならなかったけれど・・・。

今までここに来た人たちの「想い」のように、雪が積もってゆく。

まるで、この街自体が私たちのために作られた、舞台のようだ。

そんな事を思っていたら、突然教会の鐘が鳴り始めた。

タイミングが良すぎる偶然。

きつと、時計仕掛けなんだろうけど・・・。

まるで、

「「祝福されてるみたいだね」「

二人の声が重なる。

きつと、私たちの思いも、次の二人のための舞台の一部に。

ジnkusを本当にするための、ひとつに・・・。

(後書き)

なんか、前後で違ってたりする気がしたり、しなかつたり・・・。
ん、突発小説だから仕方ないとか言ってみたり。。。

最後になりましたが、こんなグダグダで意味不明な文を読んでいただきありがとうございます。

作者の気付かないところで方言や誤字脱字などが入っている場合も
ございますので、その点につきましましては大変ご迷惑をおかけします
が、ご了承ください。(ご指摘いただけるとありがたいです。)
ここまで読んでいただき誠にありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0130w/>

ジnkス

2011年10月8日18時56分発行